２０１８年・年末のご挨拶

■アブダクション研究会の皆様には、年末の慌ただしい所用を片づけられ、今ごろはやっとのことで、気持ちもゆったりと豊かな時間をお過ごしのことと拝察をいたします。

■2018 年の１年間に開催してきましたアブダクション研究会の内容は次のようになります。

（１）2018年１月27日（土）に開催しました第118回アブダクション研究会は、
『持続可能性を確保する高深度・広域・高次の知識と行動を考える（２）』という重要なテーマで、アブダクション研究会世話人の福永征夫が2017年の1月に引き続いて1990年以来の長期にわたる研究・発表の活動について報告をさせていただきました。
大河原敏男氏ならびに北村晃男が参加されて、終始積極的に質疑と議論を展開され、
今後につながる有意義な研究会となりました。

（２）2018年３月31日（土）に開催しました第１１９回アブダクション研究会は、
『ピーター・ウォード／ジョゼフ・カーシュヴィンク著＝梶山あゆみ訳／2016河出書房新社＝を輪読研究して「進化とは何か」を考える』という重要なテーマで開催し、
大河原敏男氏と世話人の福永征夫が分担して解説発表をいたしました。
藤本悦郎、村上忠良夫妻、北村晃男の各氏が出席され、終始積極的に質疑と議論を展開されました。
■「地球の生命の起源と進化に関する先進的な新発見」を記述する「新しい生命史」の広く深く輻輳する豊かな知見を研鑽し探究する、この上なく有意義な機会を共有することができました。

（３）2018年５月19日（土）に開催しました第120回アブダクション研究会は、

『「生命、エネルギー、進化----Why is Life the Way it is？」ニック・レーン著＝斉藤隆央訳／２０１６・みすず書房＝を輪読研究して「進化とは何か」を考える』という重要なテーマで開催し、アブダクション研究会世話人の福永征夫が解説発表をいたしました。
北村晃男氏が出席されて、本質的な点からの質疑を積極的に展開されました。
■16 億年前、古細菌と呼ばれる生命体に、α-プロテオバクテリアというバクテリア（細菌）の生命体が細胞内共生し、われわれの先祖である真核生物が誕生したと考えられています。
われわれの健康や寿命の要因にもこの出来事が第一原理として作用しているという驚くべき知見が引き出され展開されています。

（4）2018 年 7 月 21 日（土）に開催しました第 121 回アブダクション研究会は、
『「生命の現象（ザ・ネイチャー・オブ・オーダー）----建築の美学と世界の本質」クリストファー・アレグザンダー著＝中埜博監訳／2013・鹿島出版会＝を研鑽して「生命的な環境デザインのあり方」を考える 』という重要なテーマで開催し、
坂本牧葉先生(岐阜市立女子短期大学•生活デザイン学科)に解説発表をしていただきました。
■アレグザンダーの建築理論の積年のテーマである「生き生きとしたパターン」からさらに展開し、「生命」「全体性」「センター」をキーワードに、環境の心地よさや美学、その保存への実践を論じていますが、アレクザンダーの深奥で複雑な概念を整理し、その本質を理解するための端緒となるこの上なく有意義な機会を得ることができました。
■それはおそらく、部分域と全体域の誘導合致という、部分と全体の調和の概念に帰一するのではないかと考えられます。

（5）2018年9月29日（土）に開催しました第122回アブダクション研究会は、
『「見えざる手をこえて----新しい経済学のために」カウシック・バスー著＝栗林寛幸訳／2016・NTT 出版＝を研鑽して「持続可能性を確保する経済のあり方」を考える』
という重要なテーマで開催し、アブダクション研究会世話人の福永征夫がカウシック・バスーを理解するのに必要な知見に関する資料を幅広く示しながら解説発表をいたしました。
１．明治の先人による卓越した訳語、「経世済民の学」は西　周（あまね）によるものか。
２．経済学が目指すこと　・・・　ジャン・ティロール著＝村井章子訳『良き社会のための経済学』（2018・日経出版）を引用しました。
３．「見えざる手」とアダム・スミスの真意　・・・　根井雅弘著『経済学の歴史』（2005・講談社）、根井雅弘著『ケインズを読み直す』（2017・白水社）を引用しました。

４．市場以外に稀少性を管理する方法はあるか？　・・・　ジャン・ティロール著＝村井章子訳『良き社会のための経済学』（2018・日経出版）を引用しました。
５．市場の倫理的限界　・・・　ジャン・ティロール著＝村井章子訳『良き社会のための経済学』（2018・日経出版）を引用しました。
６．不平等　・・・　ジャン・ティロール著＝村井章子訳『良き社会のための経済学』（2018・日経出版）を引用しました。
７．ゲームの理論　その１　・・・　ジャン・ティロール著＝村井章子訳『良き社会のための経済学』（2018・日経出版）を引用しました。
８．ゲームの理論　その２　・・・　週間ダイヤモンド 2018／８／４号＝ダイヤモンド社・特集『ゲーム理論入門』における渡辺隆裕氏の誌上講義を引用しました。
９．貧困、不平等、グローバル化　・・・「見えざる手をこえて----新しい経済学のために」カウシック・バスー著＝栗林寛幸訳／2016・NTT 出版の第８章に絞り込んで、その意義と重要性を取り上げました。
大河原敏男氏、山田善教氏の積極的な参加を得て、有意義な触発と研鑽の機会となりました。
■焦点を当てました、貧困、不平等、グローバル化の問題は、21 世紀に生きるわれわれが直面する地球規模の難題の核心にも当たります。
どう対処するのか、今やわれわれ人類には、待ったなしの叡智と実行力が問われています。
「持続可能性を確保する経済のあり方」を考えるというのが、第 122 回アブダクション研究会のテーマの趣旨です。
■ゲームの理論は、今やミクロ経済学のみでなく、広く社会科学全般に普及している支配的な相互作用の理論です。
■プレーヤーはそれぞれが利己的な効用を高めようと合理的な戦略を選択して行動することが前提となっています。
■ところが、自然や環境の資源には稀少性がありますので、プレーヤーが非協力的に自分の利得を追求する（部分最適の実現）よりも、プレーヤー全員が協力する方が、全体としての利得が大きくなります（全体最適の実現）。
■わかってはいながらも、人間の経済行動がそのような部分最適に固執するという、矛盾に陥ってしまう一般的な事態を、ゲームの理論では、囚人のディレンマや共有地の悲劇というメタファーで説明しています。
■ところで、地球規模の難題群を抱えるわれわれの時代は、個人の部分最適の実現を生かしながら、社会の全体最適による共通利益を重視しなければ持続可能性が実現できない時代です。
■ゲームの理論には、このようなバランスに収斂していくという、インセンティブがビルド・インされているのかどうかが、原理的には今のところ、明らかにはなっていないようです。

■ゲームの理論の実験的な研究によると、協力行動には、社会の構成員の信頼関係という文化的な要因が関係しているようです。
■カウシック・バスーの記述からは、発展途上の国が経済的に離陸をして行くと、協力行動への志向性が高まって、さらに豊かさを増すことを読み取ることができます。
■人間が原初的な状態から、失敗の経験を踏まえて、その経済行動が徐々に進化して行くのだという進化のプロセスを考えれば、ゲームの理論と、豊かな社会の実現は、矛盾しないのかもしれませんが、われわれが直面する今の事態は急を要しています。
■地球の温暖化の防止という問題一つを捉えて見ても、われわれは 2050 年には、世界の CO_2排出量を０（ゼロ）にしなくてはなりません。
■今のようなグローバル化の形が進んで、世界の格差や各国内の格差がさらに大きくなってしまうと、貧困層の協力が得られなくなるという大きな課題を抱えることになるという危惧を、カウシック・バスーは鋭く指摘しています。

（６）2018年11月24日（土）に開催しました第123回アブダクション研究会は、
『「心の先史時代」スティーヴン・ミズン著＝松浦俊輔／牧野美佐緒訳／1998 青土社＝を輪読研究して「進化とは何か」を考える』というという重要なテーマで開催し、
アブダクション研究会世話人の福永征夫と出席者の北村晃男氏が、考古学者による、人類の「心の進化」に関する、かつてない注目すべき所説の要点を講読いたしました。
■そこでは、多くの空間と時間を跨いで展開された、ありとあらゆる遺跡や遺物の調査と解析をもとに、その事実関係とこれまでの評価を詳細に見つめ直して、綿密に洞察を積み重ねられた、人類の壮大な進化の仮説的なストーリーが紡ぎ出されています。
■現代人の能力の現状と発展について考えるために有用な数々の知見を学び取ることができるものと思われます。
■特に、特定の分野のスペシャリストとしての知識構造と、一般的な分野のジェネラリストとしての知識構造が、行ったり来たりして、互いにラセン状に循環して進化してきているという所説は、世話人が提出しているアブダクションの理論モデルともしっかりと符合しています。

■以上のように隔月に開催しているアブダクション研究会では、持続可能性を確保する「高深度・広域・高次の知識と行動」を探究するために、（イ）われわれの領域的な知識のリストに

大きな穴がないようにすることと（ロ）領域的な知識の間に、広域的で高次のつながりをつけること、の２つを目指しています。
その意義と重要性と改めて理解し、認識していただきたいと存じます。

■ご参加いただいた会員・会友の皆様には、それぞれのプロセスでのご苦労を多として、そのご熱意とご貢献に心から感謝しお礼を申し上げます。

■最近の学術の動向、並びに世情では、噴出し顕在化している地球規模の難題に対処するために、高深度・広域・高次の知識を探求して実践に結びつける、広域学に対する理解と期待が高まりつつあることは、たいへんに心強く嬉しい限りでもあります。

■そのポイントは「自己や人間という部分域」の高深度の最適化を図るベクトルと「他者や生態系を含む全体域」という広域の最適化を図るベクトルを相補的に融合させ、高深度・広域・高次の知識を実現して、実行することにあります。

■この2017年と2018年の両年は、世界各国の国内でも国際的にも、世界的広域市場の形成を目指すグローバリズムと、国の主権による民族文化と利益の尊重を目指すナショナリズムとの激しい相克の潮流がはっきりと顕在化した、歴史の節目とも呼ぶべき重要なターニング・ポイントの時期でもありました。

■人間という種の絶滅を回避するには、二つの相補的なベクトルが循環し、融合して、共進化を達成し、われわれの営みが高深度化・広域化・高次化への道を歩む以外に選択肢はなく、

おそらくは、これが新しい世界の行動規範となり、世界の安定装置としてのわが国の進路でもあるのでしょう。

■2018 年における皆様のご努力とご協力に重ねて御礼を申し上げ、
新しい年における益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

2018・12・31
アブダクション研究会
代表・世話人　福永　征夫